

はじめに

情報処理センター副所長 龍 昌治

本学に情報処理センターが設置されて、15年が経過しようとしている。その間に社会における情報処理の位置づけも大きく変化してきた。あわせて学内のコンピュータ利用教育も、従来の情報処理プロセスを研究指導するものから、エンドユーザコンピューティングにおける情報利用を中心とするものになってきている。あわせて、学部それぞれの専門教育において、進展する情報技術を利用し、研究や学習に役立てようとする動きが急速に普及している。

多くの講義室では、黒板とチョークに加え、ビデオなどの映像機器やコンピュータなどの情報機器を資料提示に使うことも増えてきた。さらに語学教育においても、積極的に情報機器を取り入れ、いわゆるeラーニングによる学習を模索し始めている。国際間の遠隔講義システムも実用段階に入ろうとしている。学生たち自身の意識変化も大きく、情報機器を利用した学習に大きな期待を持っている。

2004年度から計画されている第6期情報システムに向けては、情報機器の整備拡充ばかりではなく、これら学内の教育研究への情報技術活用を支援し、リードすることが求められている。折りしも、車道校舎にはインテリジェントビルの建設が進み、あらたな情報拠点としての活用が検討されている。

情報処理センターに求められる役割は大きく変化している。これが、次期情報システムを検討するメンバーの共通理解である。多くの制約条件の中、また環境変化の激しい中で、学生や教職員に必要な情報サービスは何か、どこまで提供できるか、その答えを探している。

サービスの提供は、提供者、受益者双方の合意があつてこそ成立する。先端的かつ冒険的な教育研究を支え、あるいは堅実で地道な教育研究を着実に進めるため、学生諸君、教職員諸兄の声をお聞かせいただきたい。学生や教員それぞれが求めるサービスを提供し、ともによりよい教育研究環境を構築していきたい。